



民事訴訟法

(6月9日)

| | | | | | |
|------|--|----|--|----|--|
| 学籍番号 | | 学年 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|----|--|

以下の問題に答えなさい。

AはBに車を100万円で売ったが、Bが代金を支払わないため、訴えを提起することを考えている。

1. AはBの住所地を管轄する地方裁判所に訴えを提起してもよいかどうか説明しなさい。
2. Bが行方不明になったとき、受訴裁判所はどうすべきか説明しなさい。
3. 民事訴訟はAが訴えを提起しないと開始しない。これを何という原則に基づいているか答えなさい。
4. Aは代金100万円のうち、50万円のみを支払いを求めて提訴することができる。これは何という原則に基づいているか答えなさい。
5. Aの債権は時効により消滅しているが、Bがそれを主張しない限り、裁判所は時効について考慮しなくてよい。これは何という原則に基づいているか答えなさい。
6. 5で答えた原則が適用されないのはどのような場合か答えなさい。



民事訴訟法

(6月9日)

| | | | | | |
|------|--|----|--|----|--|
| 学籍番号 | | 学年 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|----|--|

以下の問題に答えなさい。

CはDに200万円貸したが、返済期限が過ぎてもDが返さないため、裁判所に訴えることを検討している。

1. Cは貸し金の返済地を管轄する簡易裁判所に訴えを提起してもよいかどうか説明しなさい。
2. Dが行方不明になったとき、受訴裁判所はどうすべきか説明しなさい。
3. Cは全額の返済を求めて提訴しても、半額の返済を求め提訴してもよい。これは何という原則に基づいているか答えなさい。
4. Cではなく、Cの友人が勝手に原告となりDを訴えることが許されるかどうか説明しなさい。
5. 実際には、Dは借金を返しているが、Dがそれを主張しない限り、裁判所は返済について考慮しなくてよい。これは何という原則に基づいているか答えなさい。
6. 5で答えた原則が適用されないのはどのような場合か答えなさい。



民事訴訟法

(6月9日)

| | | | | | |
|------|--|----|--|----|--|
| 学籍番号 | | 学年 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|----|--|

以下の問題に答えなさい。

EはFに土地（2000万円）と建物（5000万円）で売却したが、Fが代金を支払わないため、裁判所に訴えることを検討している。

1. Eは土地の代金のみを求めて訴えたとするとき、裁判所は建物の売買代金の支払いについては判断することはできない。これは何という原則に基づいているか説明しなさい。
2. Eはこの訴えを土地の所在地を管轄する簡易裁判所に提起してもよいかどうか説明しなさい。
3. Fが行方不明になったとき、受訴裁判所はどうすべきか説明しなさい。
4. 実際には、Fは土地の代金を支払っているが、Fがそれを主張しない限り、裁判所は返済について考慮しなくてよい。これは何という原則に基づいているか答えなさい。
5. 4で答えた原則が適用されないのはどのような場合か答えなさい。
6. Fと和解が成立したため、Eは訴えを取下げた。このように、当事者は訴えを取下げ、訴訟を終了させる権限が与えられているが、これは何という原則に基づいているか答えなさい。